

# 千葉市文化施設の再構築に関する基礎調査等の概要

## 1 本市における文化芸術鑑賞・活動の現状と課題

### 1)文化芸術鑑賞の現状

- 劇場・ホール及び美術館で文化芸術を鑑賞する市民の割合：全体の3分の2程度（映画鑑賞含まず）
- 鑑賞ジャンル：映画・音楽・美術の鑑賞率が高い
- 鑑賞場所：40代・60代以上は市内、20代・50代は都内を主な鑑賞の場とする ※30代は市内・都内同程度
- 年代別傾向：映画・美術は全世代、ポップスや演劇は20～40代、クラシックは50～70代以上 ※30・40代は鑑賞不足

### 2)文化芸術活動の現状・課題

- 文化芸術活動をおこなう市民の割合：25～30%程度（美術系、音楽系の活動が多い）
- 文化芸術団体の課題 ⇒ 団体運営・費用への課題が多く、施設面の課題はクラシック音楽のみ
- 千葉市や文化施設への要望 ⇒ 費用・活動面で“手軽さの向上”を要望、大規模施設は不要

### 3)地区ホールの需要等

- 地区ホール未整備行政区では文化施設の不足感がやや高い
- 新たな地区ホール整備による効果 ⇒ 整備区内に効果が限定され、利用率は既存地区ホールを下回るが見込まれる
- 小規模で手軽に利用できる文化施設への要望はホール整備状況に関わらず全市的に高い

## 2 文化施設再構築に関する基本的な考え方

### 文化振興的な視点

- ・誰もが気軽に利用できる練習・発表の場を充実化【文化芸術活動の活性化】
- ・身近な鑑賞機会の提供 ⇒ 30～40代の子育て世代に鑑賞機会の提供【生活の質の向上】
- ・参加・体験型活動で子供・若年層の感性や創造性を育む機会の提供【次世代の人材育成】
- ・文化芸術を活用した地域振興、コミュニティ形成等を行う場所を提供【地域社会への貢献】
- ・集客性・経済効果等の資源として文化施設の活用【シティセールスへの活用】

### 財政的な視点

- ・H29年度までに主要債務総額1000億円削減『第2次千葉市財政健全化プラン』
- ・30年間で総延床面積の約15%の削減を目標とする『千葉市公共施設見直し方針』

### 基本的な考え方

- ① 文化芸術振興を促進し、かつ、まちづくり・地域づくり機能も兼ね備えた施設へ
- ② 「文化芸術振興」と「コスト削減」のバランスの取れた再構築を目指す

## 3 本市における市有文化施設の利用状況

### 【平成25年度の利用状況】

施設名称	ホール利用率	ホール利用件数	ホール内利用				文化利用		市外利用		利用者数(施設全体)	ホール文化利用者数
			音楽	演劇	その他	文化	件数計	比率	件数計	比率		
市民会館(大)	85.8%	291	77	66	35	178	61.2%	41	14.1%	355千人	126千人	
市民会館(小)	81.7%	300	76	35	28	139	46.3%	35	11.7%		21千人	
文化センター	71.5%	261	60	52	27	139	53.3%	12	4.6%	223千人	42千人	
文化交流プラザ	60.5%	227	120	2	11	133	58.6%	70	30.8%	396千人	45千人	
若葉BH	55.0%	213	127	43	15	185	86.9%	8	3.8%	64千人	41千人	
美浜BH(メイン)	66.9%	271	118	82	17	217	80.1%	32	11.8%	131千人	39千人	
美浜BH(音楽)	88.4%	477	446	11	6	463	96.9%	76	15.9%		29千人	
平均・合計	72.8%	2,040	1,024	291	139	1,454	69.0%	274	13.2%	1,169千人	343千人	

(注1) ホール利用率は【利用日数÷利用可能日数】により算定（1日に1コマでも利用があれば利用日数1とカウント）。

(注2) 文化交流プラザの利用者数にはスパ&フィットネスの利用者数(16万5千人)を含む。

## 4 市有文化施設のライフサイクルコストの試算

市有文化施設について、今後60年間(2016年度～2075年度)のライフサイクルコスト(LCC)を試算した。

施設名称	市民会館	文化センター	文化交流プラザ	若葉文化ホール	美浜文化ホール
60年間LCC (単位:千円)	12,815,841	25,892,223	16,466,485	6,107,952	10,739,823
順位(コスト低い順)	③	⑤	④	①	②

### 《試算条件》

- (1) LCCはイニシャルコスト(大規模改修費、建替費等)とランニングコスト(指定管理料、施設修繕費等)の合計値である。
- (2) 建替費用は、建替単価518.3千円/㎡とし、建築後60年目に現立地にて同規模建替えるものと想定した。
- (3) 大規模改修費用は、建替単価×60%×延床面積とし、建替後30年目の実施を基本として想定した。
- (4) ランニングコストは管理運営に要する費用のうち市の実質的な負担額に基づき算出した。

## 5 中央区3施設の再配置検討

施設の老朽化や運営コストの状況、未利用スペースの状況などを勘案し、中央区に集中立地する3つの文化施設(文化センター、市民会館、文化交流プラザ)についての再配置を他の行政区に先行し検討した。

### 《検討結果》

・文化センターは、本市文化振興計画において、文化芸術の拠点施設として位置付けていることや、現建物が区分所有ビル内に整備されており他用途への転用が難しいことから、継続利用することとした。

・文化センターを除いた2施設について再配置パターン(2パターン)を設定し検討した結果、パターン2が優位となった。  
【パターン1】文化交流プラザの規模縮小(音楽ホールのみ活用)するパターン  
【パターン2】市民会館を大規模化(小ホールを拡充)により、文化交流プラザを廃止するパターン

パターン区分	パターン1(文化交流プラザ規模縮小)	パターン2(市民会館大規模化)
<p>パターンイメージ図 (耐用年数を60年と設定)</p>	<p>(現地・規模縮減建替)</p> <p>※建替え時にスパ&amp;フィットネス等のフロアを縮減。</p> <p>(現地・同規模建替)</p> <p>市民会館</p> <p>文化交流プラザ</p> <p>音楽ホール</p>	<p>(別地・大規模建替)</p> <p>小規模ホール</p> <p>市民会館</p> <p>(廃止)</p> <p>文化交流プラザ</p> <p>音楽ホール</p> <p>※建物解体し、土地は売却</p> <p>※土地・建物は売却</p> <p>※売却後も、音楽ホールは購入者が10年間維持</p>
文化振興面の評価	△(現状と同程度)	○(効果あり)
コスト面の評価	△(現状と同程度)	○(効果あり)

### 市の方針

- (1) 市民会館、文化センターは継続して利用する。
- (2) 文化交流プラザは、利用状況や、再構築パターンの検討結果を踏まえ、文化施設の効果的・効率的な施設利用を図るため、市としては今後活用せず、平成29年度末で廃止する。
- (3) 文化交流プラザの建物は築17年であり、活用可能なことから、解体せず、土地と一体で売却処分する。廃止に伴う現利用者への影響等を考慮し、音楽ホール継続(10年以上)の条件を設定する。
- (4) 市民会館の建替内容及び時期等は、プラザ廃止後の利用状況等を踏まえ、別途、方針決定する。